

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02349

研究課題名(和文) 道德教育課程の科学的基礎づけ ドイツ・バイエルン州の価値教育の検討を通して

研究課題名(英文) Founding the moral education curriculum scientifically through the research on the value-education in State Bayern, Germany.

研究代表者

藤井 啓之(Hiroyuki, Fujii)

日本福祉大学・教育・心理学部・教授

研究者番号：70253044

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：ドイツ・バイエルン州が、価値教育をどう理解しているのか、なぜ価値教育に重点を置くようになったのか等について明らかにした。また、価値教育を推進する州立教育研究所、二つの財団の人的・財政的体制などについて調査した。さらに、それぞれがどのような方針を持ち、どのようなプログラムを提供してきたかについても調査した。実際にこれらを実現するのは学校の授業や活動、あるいは休日や長期休暇等を利用した学校外のプログラムであるので、文化的相互理解を重点においたドイツ語クラスの授業や、環境問題の解決を志向する特別支援学校の参加型学習、多様性と自主性を重視した私立ギムナジウムの取り組みを参観した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バイエルン州では、2000年代後半から価値教育に力を入れてきた。とりわけ近年、移民・難民の増加や、気候危機の緊迫等の状況下で、多文化理解、民主主義、地球の持続可能性などに力点が置かれるようになってきた。これらを州政府、教育現場、財団が協働して、学校内外で推進しているのがバイエルンの特徴である。各セクションで役割分担しつつ、生徒向け、教育向け、市民向けなど、さまざまなプログラムを提供していること、価値教育等を教科横断的重点テーマに設定し各教科や教科外活動などを通して実施していく教育課程編成の在り方、財団に予算を拠出して価値教育を推進する斬新な方法など、我が国でも参考にすべき点が多い。

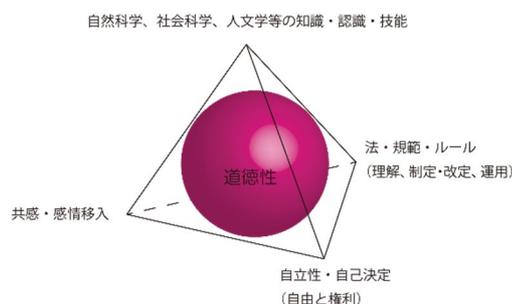
研究成果の概要(英文)：The study clarified, among other things, how the state of Bavaria, Germany, understands value education and why it has begun to focus on value education. We also investigated the human and financial structures of the state educational institute and two foundations that promote value education. In addition, we examined the policies and programs of these institute and foundations. Since these programs are actually realized in school classes and activities, as well as in out-of-school programs during vacations and long vacations, we observed a German language class (immigrant und refugee class) that emphasizes mutual cultural understanding, participatory learning at a special needs school that focuses on solving environmental problems, and a private gymnasium that emphasizes diversity and autonomy. The participants observed the following.

研究分野：教育方法学、道德教育

キーワード：価値教育 民主主義 参加 教育課程 財団

1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで世界の道徳教育の動向をフォローしつつ、道徳の授業にとどまらない道徳教育の構造化を検討してきた。暫定的に道徳性を三角錐に内接する球と想定し、三角錐の各頂点に「科学的な知識・認識・技能」ⁱ、「共感・感情移入」^j、「法・規範・ルール（理解、制定・改訂、運用）」^k、「自立性・自己決定（自由と権利）」^lを置き、各頂点の伸長が授業にとどまらない領域による教育を必要とすることについて明らかにしてきたⁱⁱ。このモデルの正当性を吟味するためにいくつかの比較対象を探していた。その一つの比較対象として、さしあたり、ドイツ・バイエルン州の価値教育を検討することが適切だと判断した。というのも、バイエルン州は、2007年ごろから価値教育に力を注いでおり、価値教育の重要な観点として、授業（宗教や倫理だけでなく教科の中での価値教育も追求）教師の影響、学校風土という3点を想定していること、また文部省や学校だけではなく、財団が関わることで、一方で、価値教育の対象が教師、市民、生徒におよび、他方で、価値教育が行われる領域が学校の授業、授業外、学校外と広い射程を持っているからである。



2. 研究の目的

ドイツ・バイエルン州の価値教育がどのような構造を持っているか、実践的にどのようなことが行われているか、どのような課題があるのかを明らかにする。また、この間の社会情勢の変化のなかで価値教育の重点がどのように移動しているのかについても明らかにする。そのうえで、筆者が仮説的に提示している道徳教育の三角錐と比較検討することで道徳教育の三角錐の妥当性を検証したり、より洗練させることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

まずは、バイエルン州のホームページや州の教育研究所（ISB=Staatsinstitut für Schulqualität und Bildungsforschung München）が発行している各種資料、価値同盟財団（WerteBündnis Bayern Stiftung）のホームページ、善行財団（Gute-tat Stiftung）のホームページなどから入手可能な資料などを通して、バイエルン州の価値教育の歴史や現状について概要を把握する。

(2) 実地調査

価値教育のプレーヤーである ISB、価値同盟財団、善行財団に、資料では分からない部分について、聞き取り調査を行う。また、実際に行われている価値教育実践や実践の場を見学することで、文献だけでは十分に理解できない現状や課題について確認する。その際、可能な限り、異なる学校種での取り組み、異なる目的での取り組み、学校内外の取り組み、多様なテーマ、たとえば文化の相互理解、参加を通じた学習、学校風土に関連するもの、内容的には持続可能性などについて見学する。

(3) 現地調査を踏まえた理論的な考察

文献や現地調査から把握したバイエルン州の価値教育の全体像から、筆者の道徳性三角錐モデルについて吟味する。

4. 研究成果

(1) バイエルン州の価値教育の概要

バイエルン州の価値教育の歴史的・構造的な理解

まず、バイエルン州に限らないが、ドイツでは、連立政権となっている場合、文部大臣がどの政党の出身かが教育政策に強く影響を与える。価値教育に注力し始めた当初は CSU（キリスト教社会同盟）主導であったが、現在は、自由有権者連盟（Freie Wähler）の政務次官 Anna Stolz が価値教育を重視し、推進している。自由有権者連盟は、有権者の直接政治参加を主張する一方で、移民・難民に厳しく接する政策である。

バイエルン州は保守的である。バイエルン州憲法 131 条（1）学校は、知識や技術を教えるだけでなく、心と性格を形成するものでなければならない。2）最高の教育目標は、神への畏敬の念、宗教的信念と人間の尊厳の尊重、自制心、責任感と喜んで責任を取ること、積極的な援助、すべての真・善・美に開かれていること、自然と環境への責任意識である。3）生徒は民主主義の精神、バイエルンの祖国とドイツ国民への愛、国家間の宥和の精神のなかで教育される。）を見ればそれは明瞭である。価値同盟の設立文書のなかでも、「価値同盟は、できるだけ多くの社会的勢力の参加を得て、ユダヤ・キリスト教とヒューマニズムの価値をより強固に地域社会に定着させることを目的としている」とあるぐらいである。

しかし、実際の教育を見る限り、大都市ミュンヘンでの移民・難民の急激な増加を背景とし

て、倫理や宗教の授業でも多様な宗教間の対話や相互尊重がテーマとなり、政治教育においても異なる文化への相互理解が重視され、各教科においては「持続可能な発展」が重視されるなど、キリスト教文化、バイエルン文化は守りつつも、多様な人々の合意形成、人類的課題の解決など、旧来の保守主義一辺倒ではなく、伝統文化と新たな文化の共存を模索している状況がうかがえる。

州政府および ISB の取り組み

2005 年にバイエルン州議会では、詳細な若者アンケートが行われ、2008 年にこの報告書が出されている。2008 年には州で「価値会議」が開催されている。両者を明確に結びつける根拠は発見していないが、報告書作成には与党議員も多数参加しており、この時期に価値会議が行われたのは偶然の一致ではないのではないかと推測される。

価値会議の様子は、「Werte machen stark」(『価値が強くする』)という冊子にまとめられている。ここには、州の首相、文部大臣、修道士、司教らの講演記録、ISB からのこれまでの道徳や価値に関する概念や価値教育理論についての整理、価値教育に関する実践事例の紹介などが記述されている。

2013 年には「Werte bilden :Impulse zur wertebasierten Schulentwicklung」(『価値をつくる 価値に基づいた学校づくりのための刺激』)を発行して、管理職を中心に価値に基づいた学校づくりの方法などを示している。ここでは、価値教育を構成する側面として 1)授業、2)教師、3)学校風土の三つが挙げられている。その後の展開をこの三側面に即して検討すると以下のとおりである。

1) 当初、授業では、主として宗教、倫理、歴史、社会科であるが、人間の尊厳や非暴力などが課題となる場所ではどこでも行われると考えられていた。しかし、2015 年に新しい教育課程 LehrplanPLUS が策定されて以降、価値教育は、学校種横断的・教科横断的な教育目標 (schulart- und fächerübergreifende Bildungs- und Erziehungszielen (FÜZ)) の一つとされている (その他の目標は、日常的な能力と生活経済、持続可能な開発のための教育、メディア教育、経済的消費者教育、政治教育、言語教育、技術教育など)。

教科学習を通じた価値教育として、たとえば「国語」(ドイツ語)では、異なる立場の意見を価値に基づいて判断すること、「スポーツ」では助け合い、社会科系科目では、地域社会の活動に積極的に参加し、政治的・社会的システムのあらゆるレベルで民主的な意思決定に参加しようとする意欲、「制作や造形」ではデザインの流行に対する反省的判断、他者の仕事への評価、道具を大切にすること、「経済と職業」では責任ある行動、多元的社会での生き方、自然・環境への配慮等々、さまざまな視点が提案されている。注目すべきは、FÜZ を実現することが職業教育学校も含めた多様な学校種で、多様な教科を通して行われていることだろう。

2) 教師の項目においては、教師の価値観は、生徒を拘束するものとしてではなく、可能性を提供するものとして位置づけられていること、及び教師は自分の学校でしっかりとしり合われ、合意された価値の体現者であることが求められるとされている。

3) 学校の風土では、a.保護者と生徒の代表と全教師と一緒に「学校の価値」を発見すること、b.学校は、少しの、共に生きるための義務的な価値で十分であること、c.それを広報することが推進力となること、等のことが強調されている。これらのことから、学校の全構成員による学校のプロフィールづくりなどが取り組まれている。

財団の取り組み

1) 価値同盟財団

価値同盟財団は、州政府からの 250 万ユーロの基金をもとに、4 人のスタッフで諸団体からの寄付を集めながら運営している。州の価値教育の推進を担っているので、基本的な法校正は州や ISB と同じ方向を向いているが、政府や ISB とは異なり、取組の対象が子どもや教師のみでなく市民にも及んでいる。また、子どもが参加する取り組みも、一部、学校の委託を受けて全校生徒を対象に行っている活動もあるものの、学校外、教科外の有志参加の活動がほとんどである。いくつものプロジェクトを運営し、定期的に活動の有効性について評価を行い、プロジェクトの継続か廃止かを決定している。道徳教育のメディアでもある教師の潜在能力開発を行うとともに、生徒の潜在能力開発の能力を高める SPARK、STEM (STEAM) 科目のなかで科学技術と価値 (倫理) の問題を扱う MINT und Werte、社会問題について学習し、身近な地域で差別、気候変動、過激主義、民主主義への脅威、貧困、社会正義等のプロジェクトを実現する Einmischen、東西ドイツ統一記念日前夜にバイエルン 30 か所で泊まり込みで市民、政治家、ジャーナリスト等が参加して民主主義について語り合う Lange Nacht der Demokratie、価値同盟の参加団体が最新の経済や科学について意見交換したり、プログラムの評価を行ったりする WerteDialog Zukunft などがある。

近年力を注いでいるプログラムは「統合と寛容のイニシアチブ」(Initiative für Integration und Toleranz)である。急激に文化的、思想的、宗教的、社会的な多様性を増すドイツにおいて、出身地に関係なく、若者目線での出会いを促進しつつ、バ

イエレンの文化も保持するというプログラムである。保守的なバイエルン州らしい取り組みだが、保持すべき価値として挙げられているのは「共同体、平和と正義の基礎としての人権、民主主義、法の支配と法の下での平等、個人の自由と他者の権利の尊重、生命と身体の完全性に対する権利、教育を受ける権利と社会への参加、男性と女性の平等な権利、共同体への義務としての家族と子どものケア、信仰、良心、宗教と思想の告白と実践、表現の自由、報道、芸術と科学の自由」など普遍性を持つものがほとんどである。イスラム過激主義などを退けるためには普遍性に依拠せざるを得ないということでもあるだろう。

2) 善行財団

善行財団は、バイエルンだけではなくドイツ全土で展開している財団である。財団の主要な活動は、様々なボランティアの登録やボランティア先の提供、そのためのコンピュータプログラムの無償提供などである。ミュンヘン支部には、「参加を通じた学習」(Lernen durch Engagement)の支援を行う担当者が一名おり、直接的には特別支援学校の学習デザインの支援、間接的には参加を通じた学習のための教員研修を行っている。価値教育との関連については、社会参加することで民主主義の担い手を育てるということ、また特別支援学校では「持続可能な開発」に関連した環境学習を参加型で行っていることなどが挙げられる。

(2)理論枠組みの検討

道徳性の三角錐とバイエルン州の価値教育の構造を比較すると、バイエルン州は、構造というよりも、価値観に影響を与える要因(授業、教師、学校風土)で分類している。実際にそれぞれの場で価値教育において何に留意すべきかということを知るうえで有効かもしれないが、子どもの価値観とは何か、どのような構成要素を持つのか、ゆえにどの部分が不足しているのかを検証することは難しいだろう。このことは、たとえば、国語(ドイツ語)の授業での価値教育で「異なる立場の意見を価値に基づいて判断すること」ということが取り上げられ、文章読解における人間の心情理解が価値観にどのような影響を与えるかが十分に意識されないなどの問題を生じさせるのではないかと。人間は、他者の感情を深く理解し、共感ないし感情移入することができれば、それほど努力をせずとも自然に行動できることが多い。ところが、「共感・感情移入」なしで「民主主義的に行動すべき」とか「異なる価値の人を尊重しなければならない」とかいう論理で行動しようとする、「自然な」感情に逆らって行動することになり、多大なエネルギーが必要になる。したがって、道徳性の三角錐の視点からバイエルンの価値教育を見ることで、その弱点を照らし出すことができた。逆に、バイエルンの価値教育は三角錐の頂点でいう「法・規範・ルール」と「自主性・自己決定」がかなり近いものとして扱われているように思われる。あらためて、この二つの視点を整理し直すという課題が明らかになった。

なお、州政府、州立教育研究所、財団が連携して、授業、授業外で価値教育実践をしていくという推進体制の在り方、また、全員に教え込むというよりも、教師、生徒、市民のなかに価値を広げる人(Multiplikator)を育てるという考え方も学ぶべき点であろう。

ⁱ 藤井啓之「道徳教育の研究動向 - 『道徳・性格教育ハンドブック』の内容分析を中心に - 」日本教育法学会編『教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化』図書文化、2015。

ⁱⁱ 藤井啓之、連載「『特別の教科 道徳』の課題と展望」広島大学附属小学校『学校教育』2019年10月号から2020年3月号まで。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤井啓之 高橋英児
2. 発表標題 ドイツ・バイエルン州における価値教育に関する研究 全体構想と実施体制と実践例について
3. 学会等名 日本教育方法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤井啓之
2. 発表標題 道徳教育の構造的把握 - 構成要素とその相互関連の発達論的検討 -
3. 学会等名 日本教育方法学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 英児 (Eiji Takahashi) (40324173)	山梨大学・大学院総合研究部・教授 (13501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------